

2025年3月期 第3四半期 決算補足資料

2025年2月7日



ダイワボウホールディングス株式会社

(証券コード : 3107)

2025年3月期 第3四半期 (2024年4月1日～2024年12月31日)

PC更新需要を中心としたIT需要を確実に捉え
第3四半期累計の売上高は過去最高を更新

業績

ITインフラ流通事業

- Windows更新需要は大企業向け大規模案件の多数獲得により売上牽引
- iKAZUCHI（雷）の取扱高は前期比+40.1%と順調に拡大
- 企業・官公庁・文教市場いずれも好調に推移し増収増益

産業機械事業

- 工作機械部門において、コスト増加により利益面で苦戦するも、短納期需要の取り込みが奏功し増収

見通し

- 2025年3月期 通期売上高および営業利益の見通しを上方修正 → P2

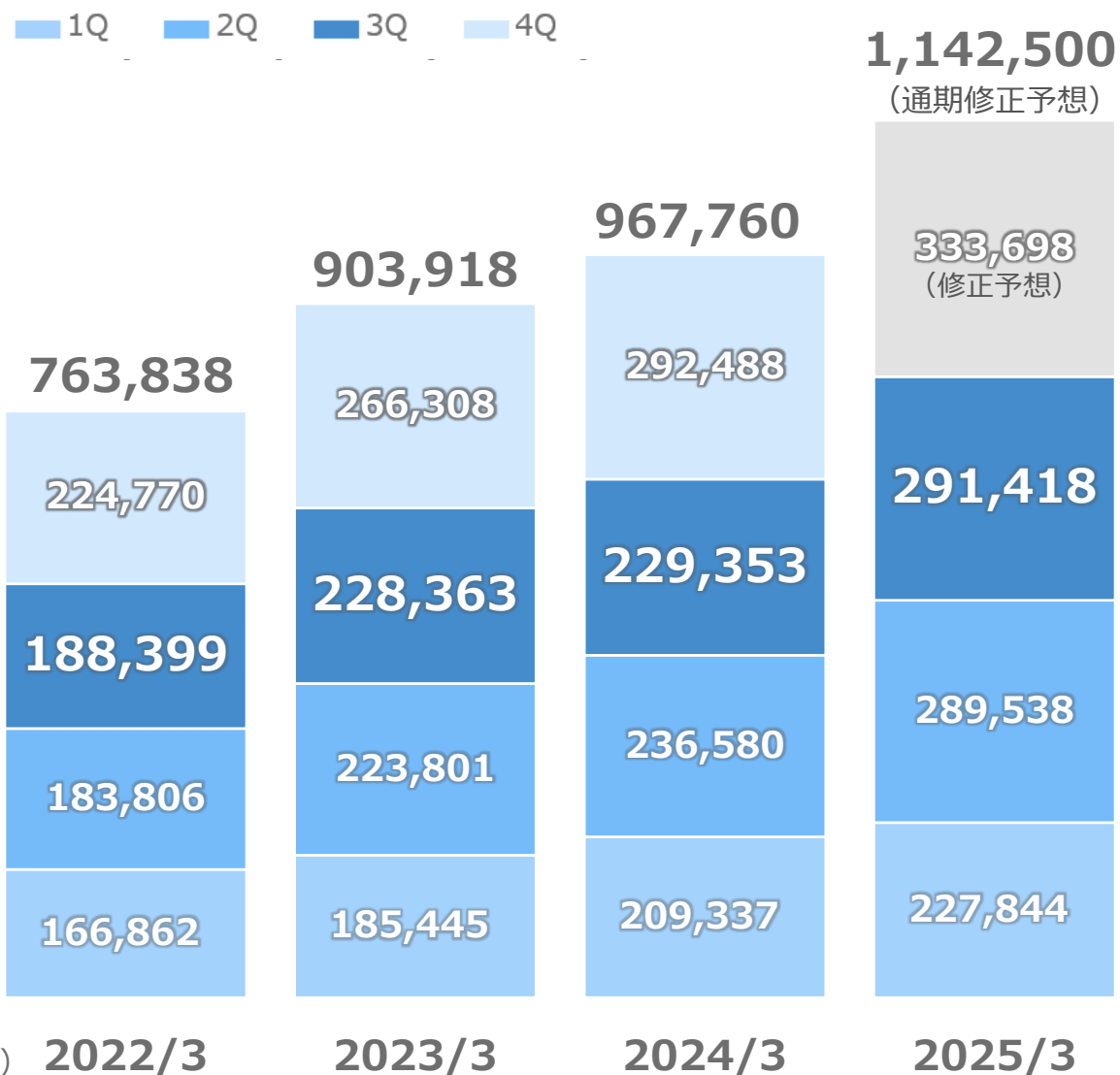
株主還元

- 2024年5月より実施していた約100億円の自己株式取得が12月に終了 → P13

2025年3月期 通期業績予想

(百万円)	2024/3 (実績)		2025/3		増減額 ②-①	増減額 ②-前期	前期比
	率	①前回予想 (24/11/6開示)	率	②修正予想 (25/2/7開示)			
売上高	967,760	1,123,500		1,142,500	+19,000	+174,739	+18.1%
ITインフラ流通	894,693	1,111,100		1,130,000	+18,900	+235,306	+26.3%
産業機械	13,213	12,400		12,500	+100	△713	△5.4%
繊維	59,210	—		—	—	△59,210	—
営業利益	30,963 3.2%	33,000 2.9%		34,500 3.0%	+1,500	+3,536	+11.4%
ITインフラ流通	28,244 3.2%	32,320 2.9%		33,700 3.0%	+1,380	+5,455	+19.3%
産業機械	1,032 7.8%	680 5.5%		800 6.4%	+120	△232	△22.5%
繊維	1,580 2.7%	—		—	—	△1,580	—
経常利益	31,431 3.2%	33,400 3.0%		34,900 3.1%	+1,500	+3,468	+11.0%
親会社株主に帰属する 当期純利益	4,283 0.4%	23,000 2.0%		23,900 2.1%	+900	+19,616	+458.0%

2025年3月期 3Q累計 売上高 (4月~12月)



売上高 **808,801**百万円

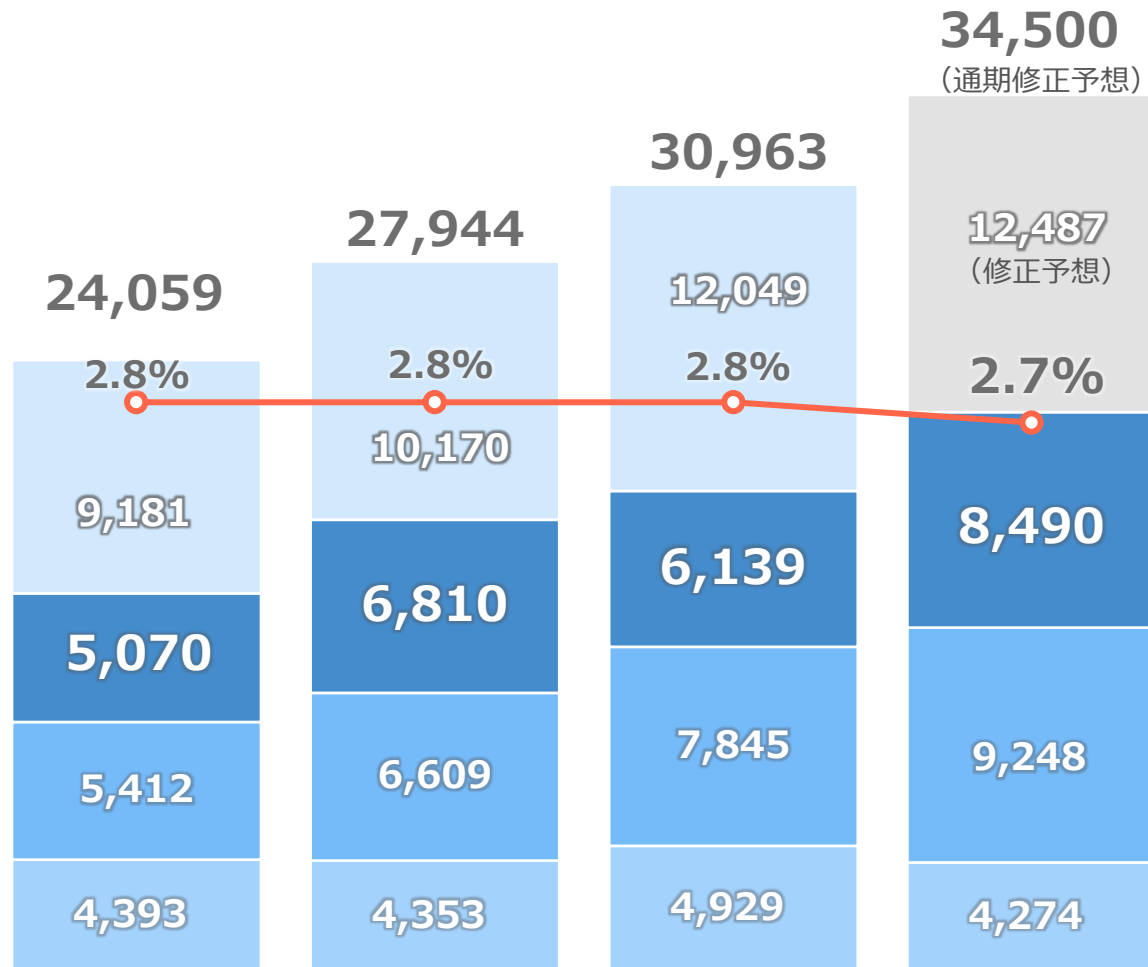
前年同期比 + **19.8%**

進捗率 **70.8%**

3Q累計として過去最高の業績

2025年3月期 3Q累計 営業利益 (4月~12月)

■ 1Q ■ 2Q ■ 3Q ■ 4Q ○ 売上高営業利益率 (3Q)



営業利益 **22,012**百万円

前年同期比 + **16.4%**

営業利益率 **2.7%**

進捗率 **63.8%**

(百万円) 2022/3 2023/3 2024/3 2025/3

2025年3月期 3Q累計 連結決算概況

(百万円)	2024/3 3Q	2025/3 3Q	増減	前期比	修正予想 (2/7開示)	進捗率
売上高	675,271	808,801	+133,529	+19.8%	1,142,500	70.8%
営業利益	18,913	22,012	+3,098	+16.4%	34,500	63.8%
経常利益	19,147	22,430	+3,283	+17.1%	34,900	64.3%
親会社株主に帰属する 四半期純利益	※△4,198	15,377	+19,575	—	23,900	64.3%
1株当たり 四半期純利益 (円)	△44.92	167.74				

※大和紡績の株式譲渡決定に伴う減損損失(16,695)を反映しております。

(百万円)	2024/3	2024/12	増減	主な増減理由
総資産	405,256	423,998	+18,741	DIS在庫の増加
純資産	142,133	141,420	△713	自己株式の取得
自己資本比率	35.0%	33.3%		

2025年3月期 3Q累計 セグメント別業績

(百万円)		2024/3 3Q	2025/3 3Q	増減	前期比
売上高	ITインフラ流通	622,276	799,680	+177,404	+28.5%
	産業機械	8,699	9,121	+421	+4.8%
	繊維	43,845	—	△43,845	—
	その他	450	—	△450	—
	合計	675,271	808,801	+133,529	+19.8%
営業利益	ITインフラ流通	17,459	21,477	+4,018	+23.0%
	産業機械	584	532	△51	△8.8%
	繊維	797	—	△797	—
	その他	32	—	△32	—
	(調整額)	40	2	△38	△94.8%
	合計	18,913	22,012	+3,098	+16.4%

2025年3月期 3Q 連結貸借対照表 (決算短信P3-4)



(百万円)	2024/3	2024/12	増減		2024/3	2024/12	増減
流動資産	377,245	393,992	+16,747	流動負債	239,742	259,302	+19,560
現金及び預金	69,372	60,424	△8,948	支払手形及び買掛金	206,212	229,156	+22,943
受取手形及び売掛金	236,306	244,781	+8,474	短期借入金	8,400	7,304	△1,096
商品及び製品	33,413	47,941	+14,527	固定負債	23,380	23,275	△105
有形固定資産	10,238	11,164	+925	長期借入金	12,500	13,266	+766
無形固定資産	3,691	4,075	+384	負債合計	263,123	282,578	+19,454
投資その他の資産	14,081	14,765	+684	純資産合計	142,133	141,420	△713
				自己株式	△5,133	△15,088	△9,955
資産合計	405,256	423,998	+18,741	負債純資産合計	405,256	423,998	+18,741

現金及び預金	69,372	→	60,424	△8,948	自己株式の取得、DISでの設備投資
商品及び製品	33,413	→	47,941	+14,527	DIS在庫の増加
支払手形及び買掛金	206,212	→	229,156	+22,943	DISの仕入債務の増加
借入金合計	20,900	→	20,570	△330	

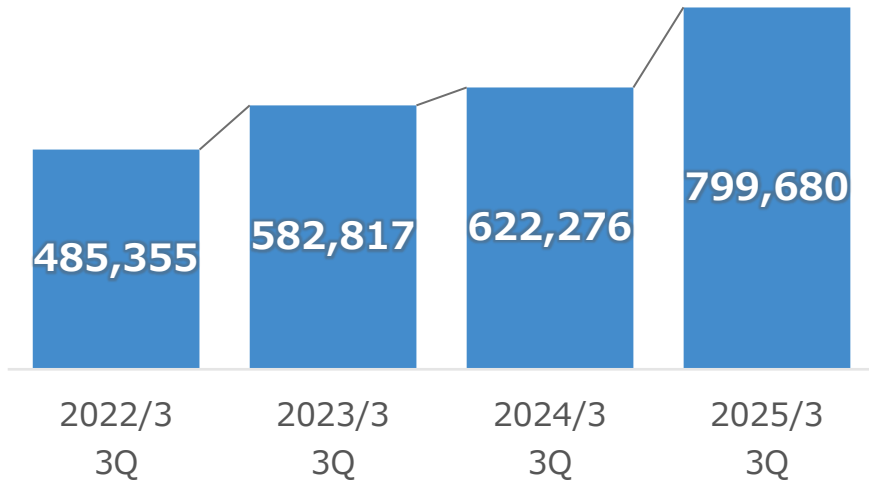
2025年3月期 3Q累計 連結損益計算書 (決算短信P5)

(百万円)	2024/3 3Q		2025/3 3Q		増減	前期比
	実績	率	実績	率		
売上高	675,271		808,801		+133,529	+19.8%
売上総利益	54,050	8.0%	54,066	6.7%	+15	+0.0%
販売費及び一般管理費	35,136	5.2%	32,053	4.0%	△3,083	△8.8%
営業利益	18,913	2.8%	22,012	2.7%	+3,098	+16.4%
経常利益	19,147	2.8%	22,430	2.8%	+3,283	+17.1%
特別損失	※16,747		1		△16,746	△100.0%
親会社株主に帰属する 四半期純利益	△4,198	△0.6%	15,377	1.9%	+19,575	-

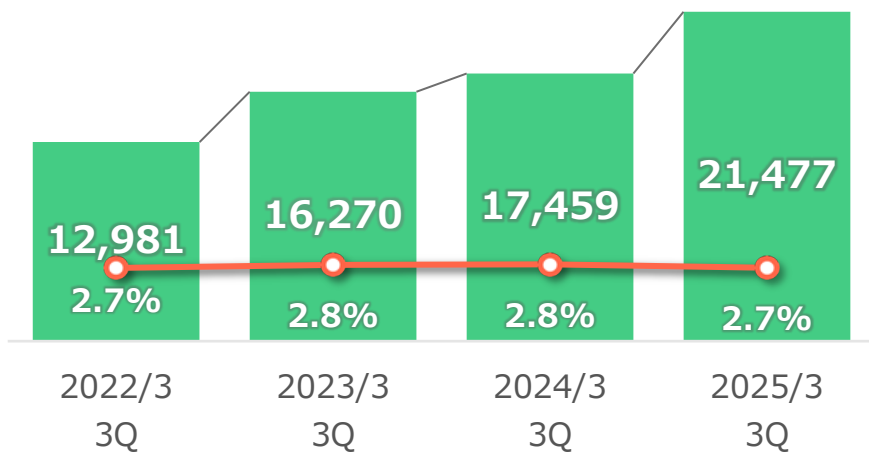
※大和紡績の株式譲渡決定に伴う減損損失を反映しております。

ITインフラ流通事業 3Q（累計）比較

(百万円)



■ 売上高 ■ 営業利益 ■ 売上高営業利益率



取扱高 ※旧基準売上高 **859,657**百万円 (前期比+**28.4%**)

売上高 **799,680**百万円 (前期比+**28.5%**)

営業利益 **21,477**百万円 (前期比+**23.0%**)

PC出荷台数 **269.7**万台 (前期比+**30.5%**)

サーバー出荷台数 **4.6**万台 (前期比+**12.8%**)

iKAZUCHI(雷)取扱高 **28,335**百万円 (前期比+**40.1%**)

事業概況

コーポレート向け市場

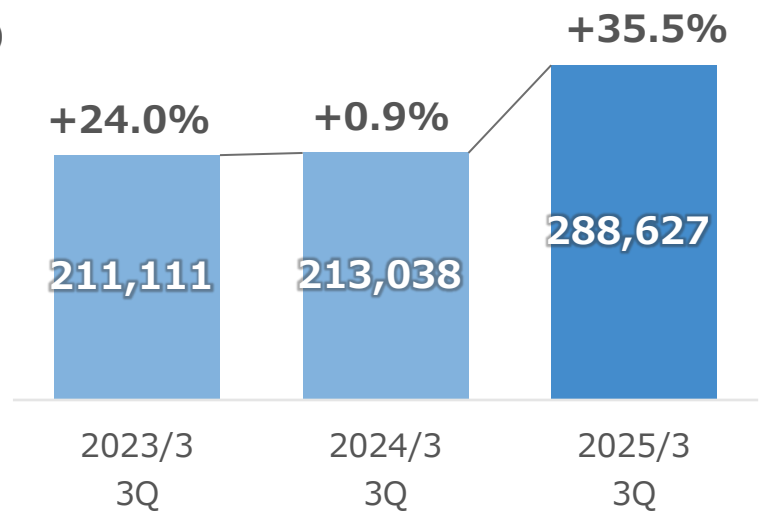
- 企業、官公庁向けにPCやサーバーの大型案件を多数獲得し売上高を牽引
- 文教向けは校務用端末の更新需要等により前年売上高を上回る。当期のGIGAスクール第2期需要は限定的
- サブスクは、エンドユーザー契約数が順調に拡大したことによりiKAZUCHI(雷)経由の実績増加

コンシューマ向け市場

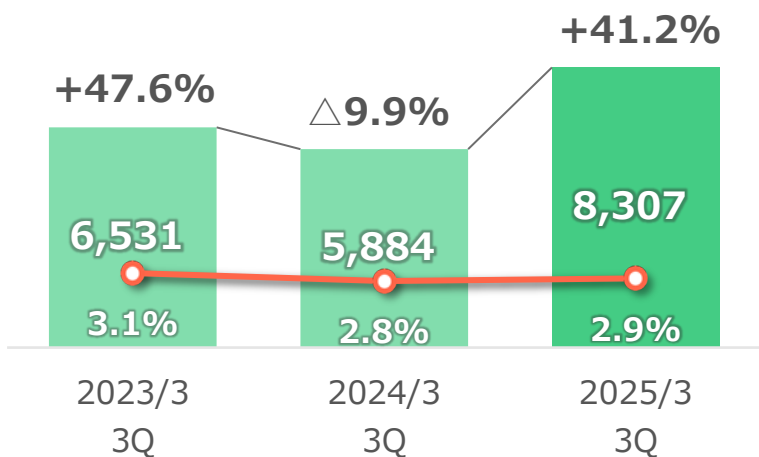
- PC、モニタ販売において、量販店向けが好調に推移しコンシューマ部門全体としては前年売上高を上回る

ITインフラ流通事業 3Q（10月～12月）比較

(百万円)



■ 売上高 ■ 営業利益 ■ 営業利益率

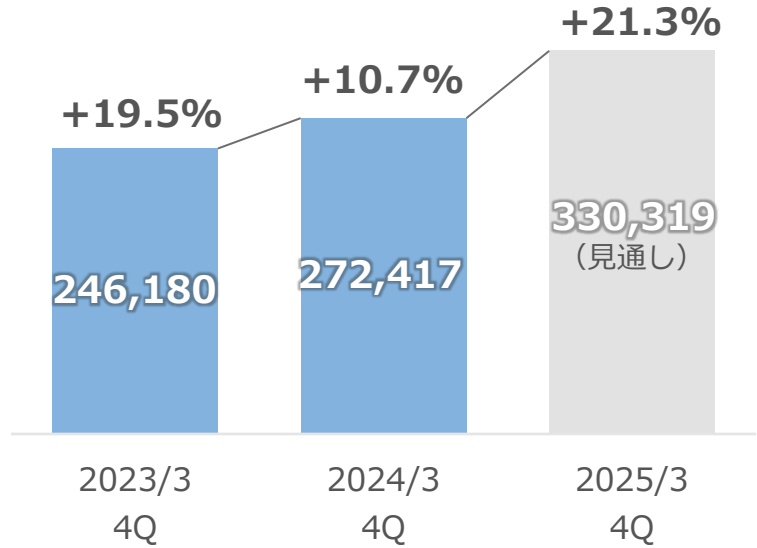


■ 前年度3Q（10月～12月）との業績差異について

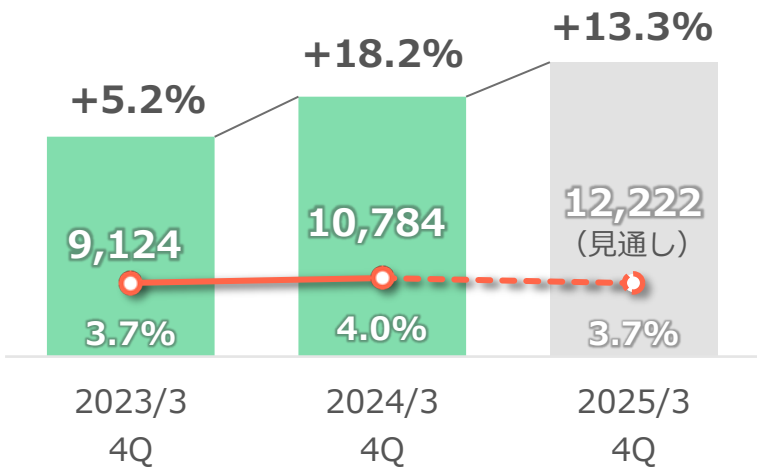
- PC出荷台数 +41.3%
Windows更新需要は大企業向けの大規模導入を中心に獲得し大幅増
- iKAZUCHI（雷）取扱高 +43.2%
通期目標400億円に対し283.3億円（進捗率70.8%）
エンドユーザー契約件数が順調に増加
- 販売パートナー経由のユーザー業種別では、サービス業、情報通信業、製造業が好調に推移し、売上高が大幅増
- 安定した製品供給の状況を背景に厳しい競争環境となるなか、営業利益率は小幅に改善し、営業利益額では前年を大きく上回る

ITインフラ流通事業 4Q（1月～3月）予想

(百万円)



■ 売上高 ■ 営業利益 ■ 営業利益率



4Q（1月～3月）の見通し

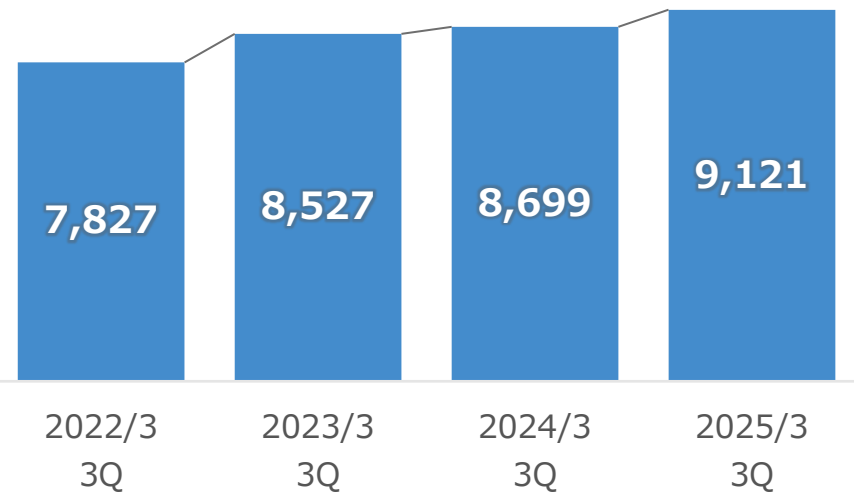
- Windows更新需要
4Q出荷台数は**118万台（前期比+24%）**を予想
中小企業での更新が本格化し来年度上期まで継続する見通し
- GIGAスクール第2期
今年度の更新は先行調達案件分となり限定的
4Q以降に都道府県単位の共同調達での入札公示が本格化するが納品は来年度以降を想定
- 営業利益率は、円安に伴う製品価格の上昇や複数の大規模案件での競争環境の継続により前年は下回るものの、小規模の需要も本格化し売上高も増加することから一昨年程度の水準を予測

ITインフラ流通事業の季節性について

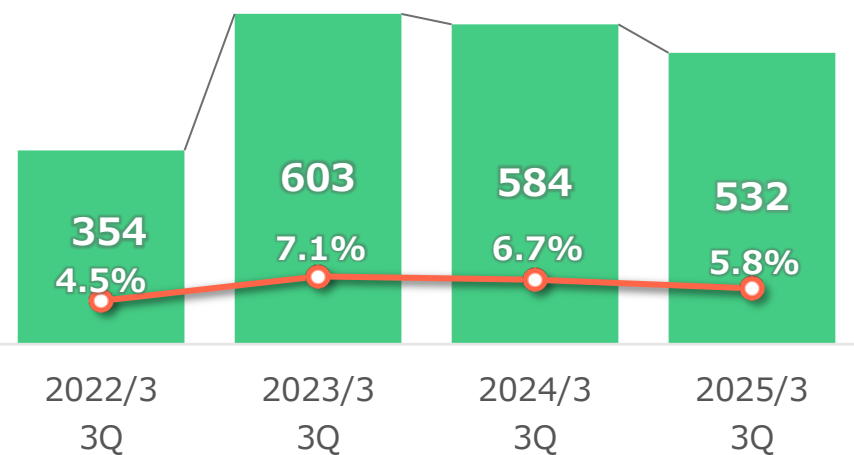
多くの国内企業で決算期となる3月と9月に需要が集中する傾向がある。

産業機械事業 3Q（累計）比較

(百万円)



■ 売上高 ■ 営業利益 ■ 売上高営業利益率



売上高

9,121百万円 (前期比+**4.8%**)

営業利益

532百万円 (前期比△**8.8%**)

事業概況

工作機械部門

- 日本工作機械工業会の4月～12月受注総額は前期比2.8%増となるなか、当社受注高は前期比1.9%増
- 国内向けは好況な造船やエネルギー業界において継続的に受注獲得しているものの、主力の航空機業界では回復に遅れがみられ、受注高は前期比で減少
- 海外向けは米国の航空機業界を中心に受注が回復傾向、中国向けでは円安効果によって円建て取引が好調なこともあり、受注高は前期比で増加

自動機械部門

- 省人化の需要があるも受注高は前期比22.9%の減少
- オーバーホール案件を中心に機能改善や電装リニューアルなどを提案しサービス体制の強化を実施

1株配当

自己株式取得

配当性向

総還元性向

2025年3月期（予想）

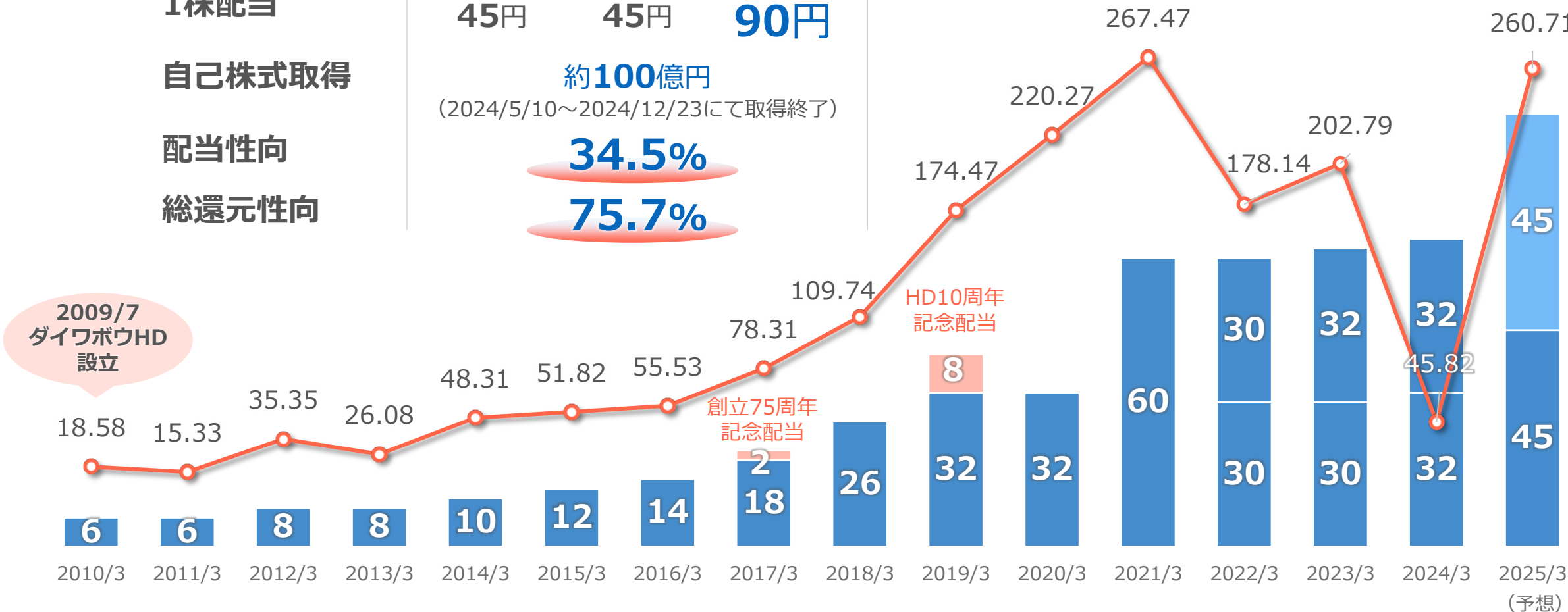
中間	期末	年間
45円	45円	90円

約**100億**円
(2024/5/10~2024/12/23にて取得終了)

34.5%

75.7%

■ 1株当たり配当金（円）
○ 1株当たり利益/EPS（円）



※株式併合（2017/10/1）・株式分割（2021/4/1）を過年度に遡及して表示

参考資料

- ▶ 中期経営計画の概要（2025/3～2027/3）
- ▶ ITインフラ流通事業の「取扱高」について
- ▶ 事業概要
- ▶ 業績推移グラフ

01

ホールディングス 体制での成長

- 持株会社として新たな事業領域への参入を探求
- 事業会社はセグメント内での強化・再編に着手

02

"過去最高" へのチャレンジ

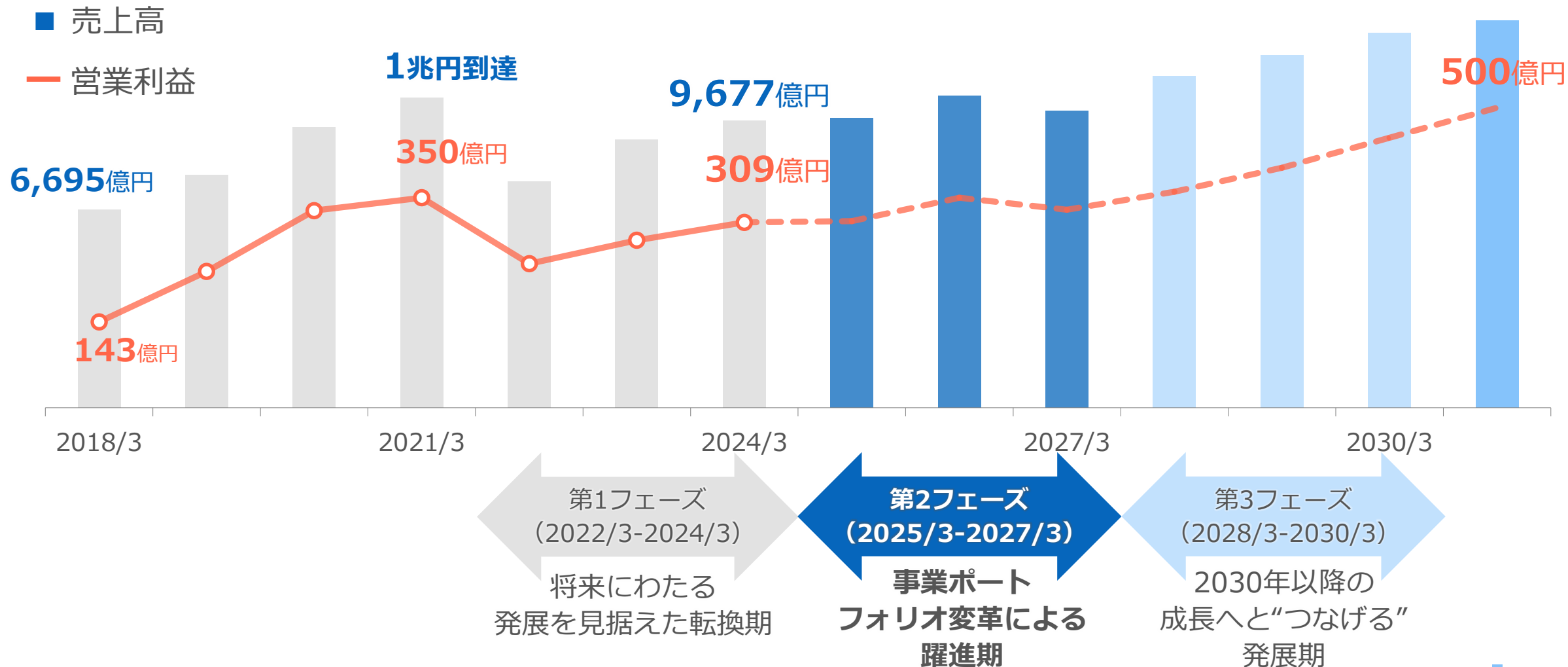
- 売上高、利益における過去最高業績の更新
- 会社、組織、事業、個人それぞれのフィールドでベストパフォーマンスを目指す

03

ステークホルダー エンゲージメントの向上

- 株主、取引先、従業員、地域社会などとの信頼関係向上と相互理解による協働
- 人的資本、システム、ガバナンス面など必要とされる経営基盤のさらなる強化
- ウェルビーイング経営の推進

『2030 VISION』からバックキャストする観点でも重要な3カ年



さらなる成長のために、M&Aを積極的に推進する計画
事業領域とハードルレートを意識した規律ある投資判断により実施する

事業領域

M&Aは以下の事業領域を中心に実施を検討

- AI
- DX
- XaaS
- Subscription
- Network
- Logistics
- ITAD
- Consulting
- Security
- Automation
- Education
- Healthcare



投資・調達の意思決定

定量的に投資判断を実施

資本コストを上回るか

株主資本コスト：6.2%~7.5% WACC：5.8%~7.0%

長期的にEPSの向上に資するか

自己株式の取得と比較検討

財務健全性：長期的に格付A※を維持

資本効率を低下させないか

資金調達方針

小規模のものは手元資金で賄うが、必要に応じて借入を中心に資金調達

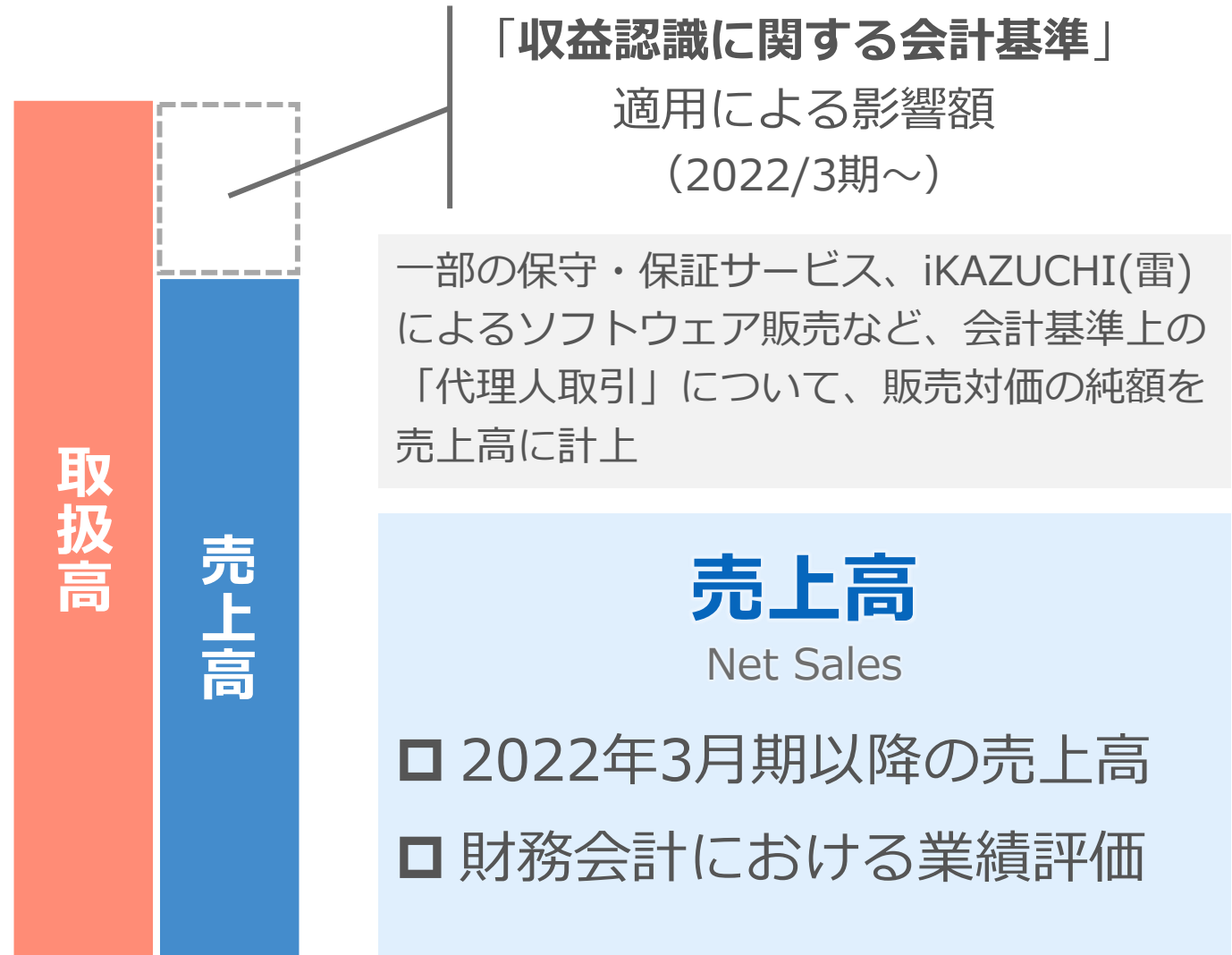
参考資料

- ▶ 中期経営計画の概要（2025/3～2027/3）
- ▶ ITインフラ流通事業の「取扱高」について
- ▶ 事業概要
- ▶ 業績推移グラフ

取扱高

Transaction Volume

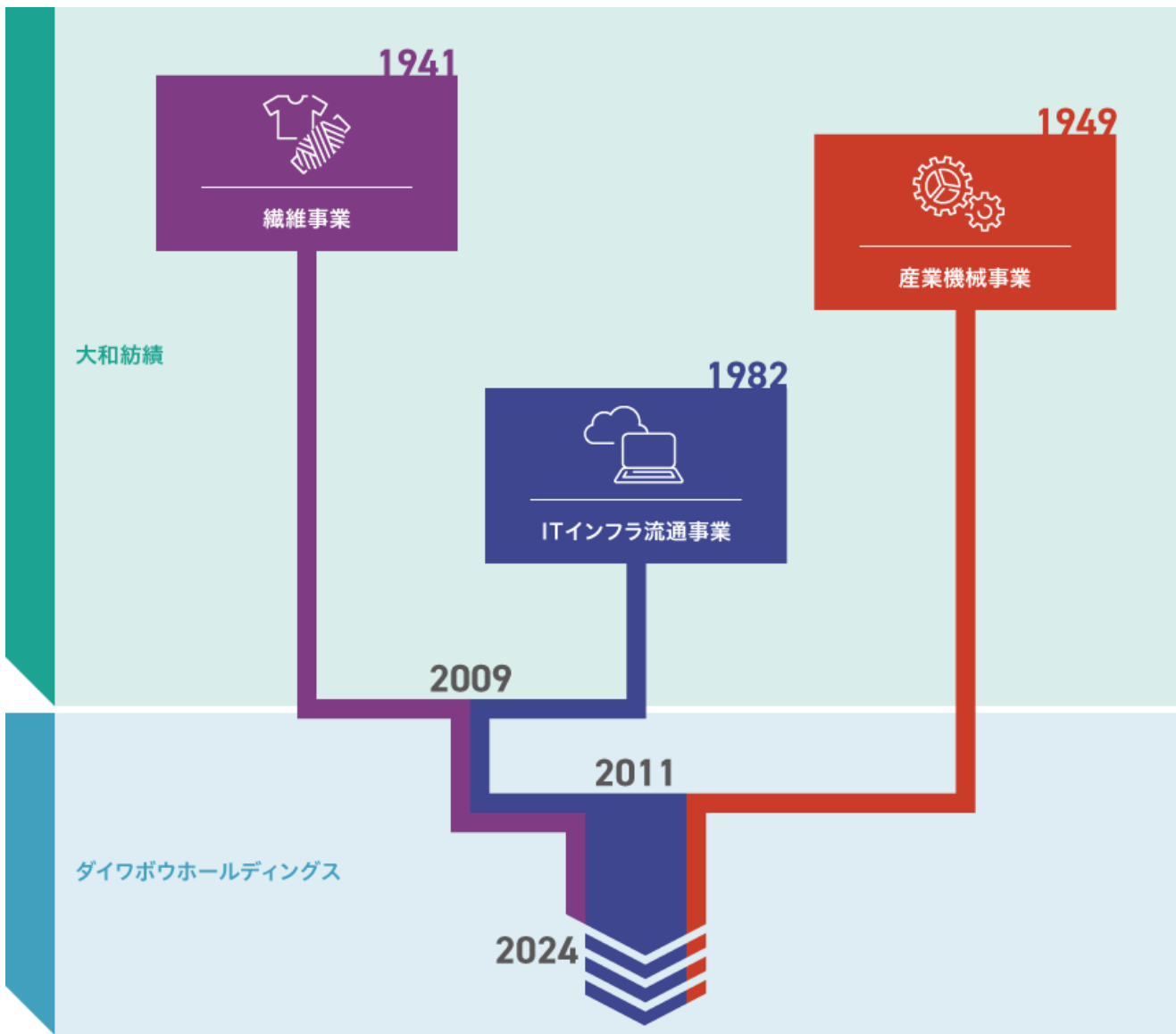
- 2021年3月期以前の売上高と同じ基準で算出
(= 会計基準変更前の売上高)
- 取引規模を示す上で重要な指標となるため「取扱高」として継続して活用
- 管理会計における営業評価



参考資料

- ▶ 前期（2024年3月期）決算の遡及修正について
- ▶ 中期経営計画の概要（2025/3～2027/3）
- ▶ ITインフラ流通事業の「取扱高」について
- ▶ **事業概要**
- ▶ 業績推移グラフ

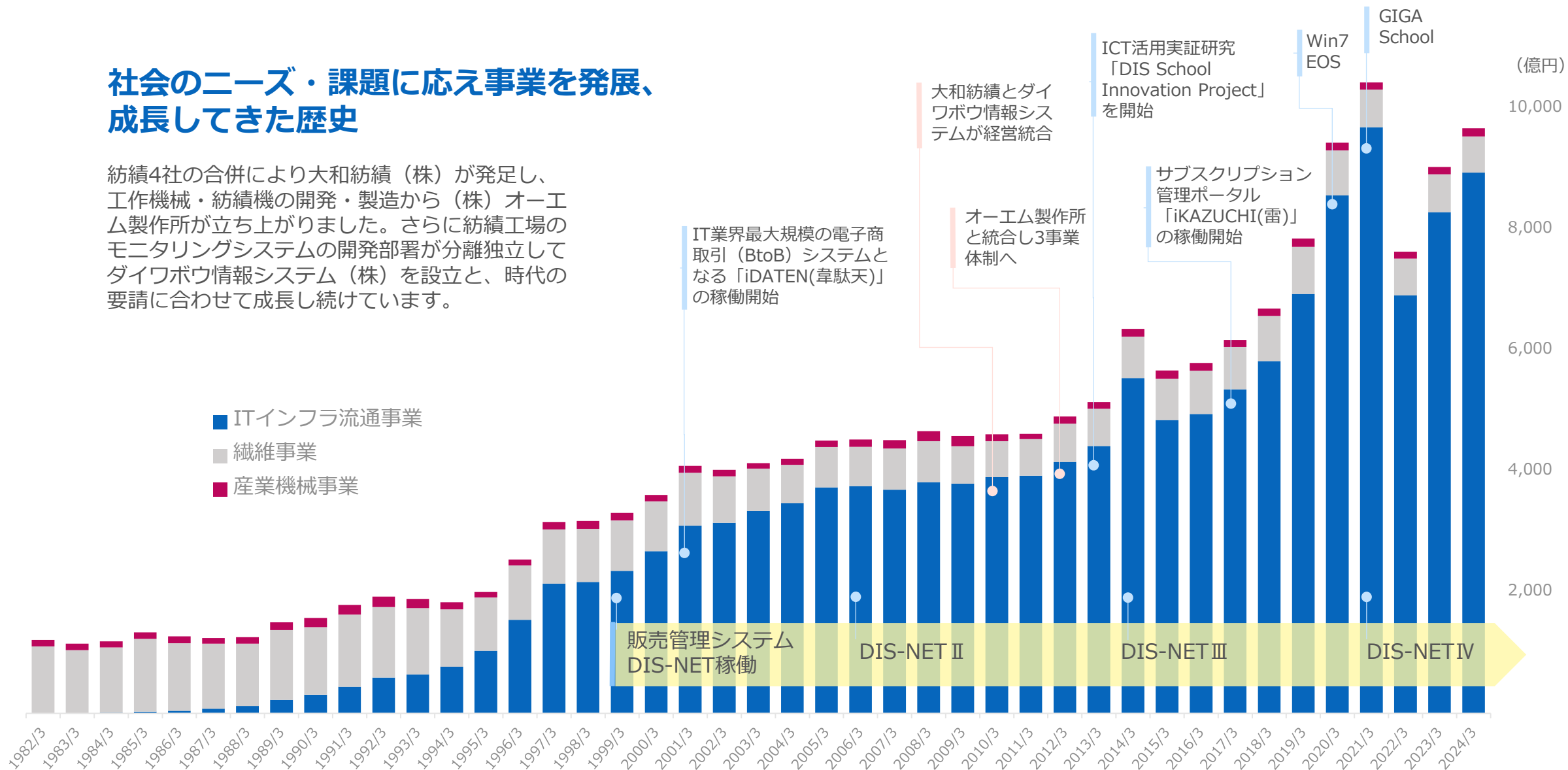
グループの沿革



- 1941. 4 錦華紡績、日出紡織、出雲製織および和歌山紡織の4社が合併し、**大和紡績**として発足
- 1949. 5 大和紡績が東証1部上場
- 1949. 7 大和紡績が宍道工場を分離し、大和機械工業（現**オーエム製作所**）を設立
→その後、工作機械・紡績機の製造を手掛けていた大阪機械製作所と1960年に合併しオーエム製作所が誕生
- 1971.11 オーエム製作所が東証1部上場
- 1982. 4 大和紡績が新規展開の一環として、情報関連事業へ進出するために**ダイワボウ情報システム**を設立
- 2000. 9 ダイワボウ情報システムが東証1部上場
- 2009. 4 大和紡績とダイワボウ情報システムが経営統合
- 2009. 7 大和紡績が**ダイワボウホールディングス**へ商号変更
繊維事業の中核会社として新たに**大和紡績**を設立
- 2011. 7 ダイワボウホールディングスとオーエム製作所が経営統合 ⇒**3事業体制**へ
- 2023.11 大和紡績の独立化（株式譲渡）を決定
- 2024. 3 株式譲渡により**大和紡績の独立**が実現

社会のニーズ・課題に応え事業を発展、成長してきた歴史

紡績4社の合併により大和紡績（株）が発足し、工作機械・紡績機の開発・製造から（株）オーエム製作所が立ち上がりました。さらに紡績工場のモニタリングシステムの開発部署が分離独立してダイワボウ情報システム（株）を設立と、時代の要請に合わせて成長し続けています。



ダイワボウ情報システム（DIS）の歩み

1982 DIS創業

- 大和紡績が、PC活用による生産現場のモニタリングシステムを自社開発したノウハウを生かして、わずか10名でスタート
- システム開発・販売ではなく、PCをはじめとした情報機器の販売にシフト

1983-1984 多店舗展開

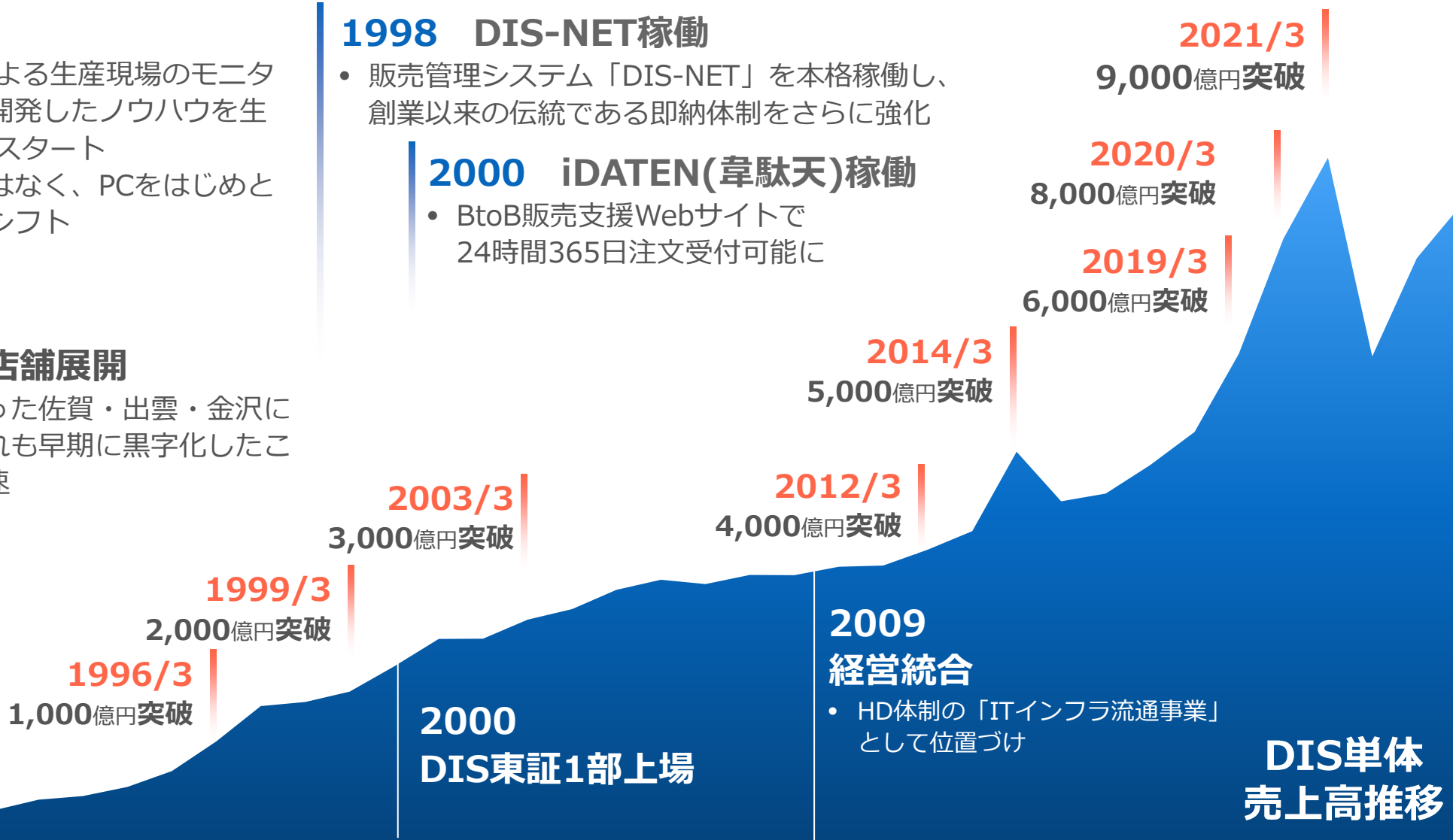
- 大和紡績の工場があった佐賀・出雲・金沢に支店を開設し、いずれも早期に黒字化したことで多店舗展開を加速

1998 DIS-NET稼働

- 販売管理システム「DIS-NET」を本格稼働し、創業以来の伝統である即納体制をさらに強化

2000 iDATEN(韋駄天)稼働

- BtoB販売支援Webサイトで24時間365日注文受付可能に

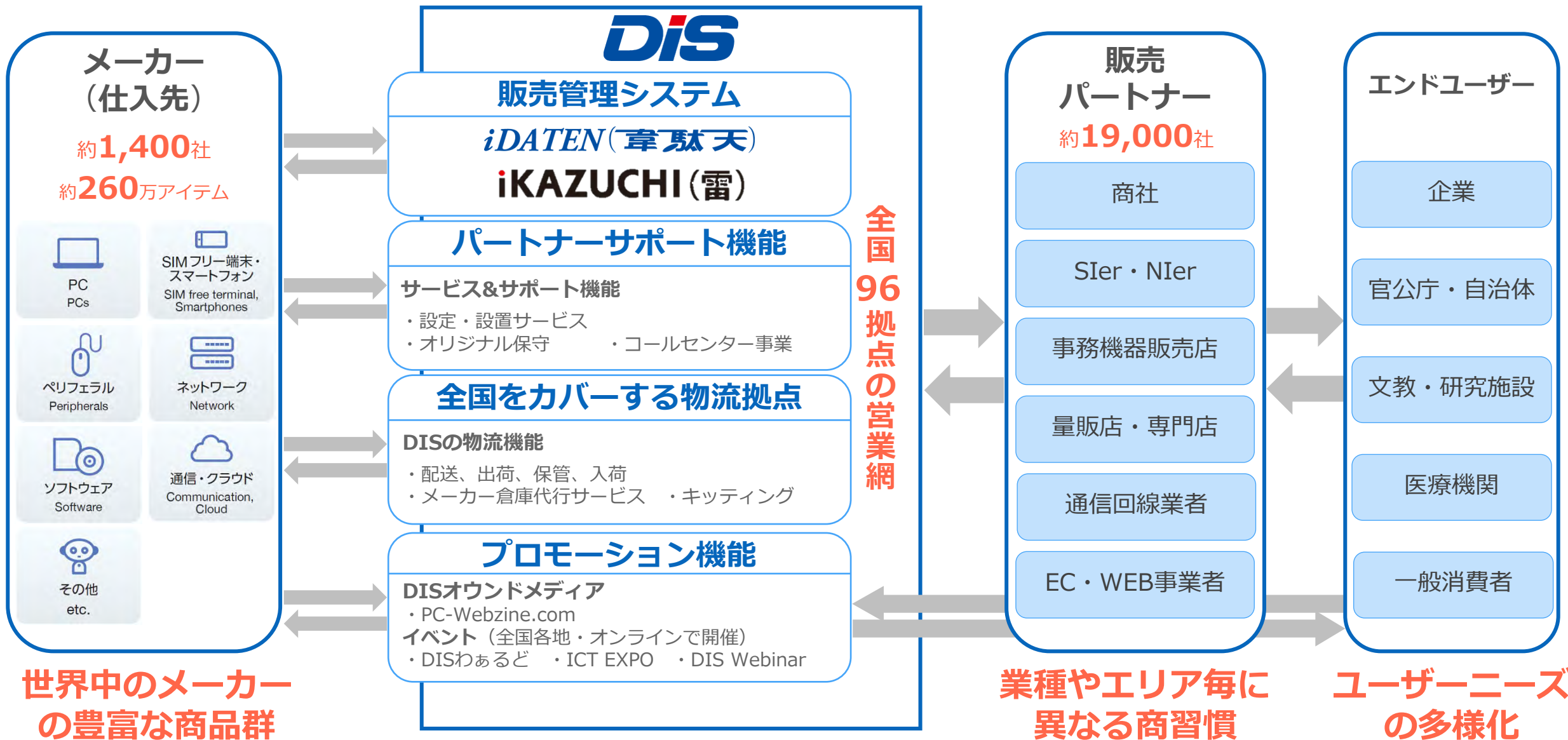


2009 経営統合

- HD体制の「ITインフラ流通事業」として位置づけ

DIS単体
売上高推移

ITインフラ流通事業の事業構造



メーカー (仕入先)

約1,400社 約260万アイテム

商品開発
営業・販促
受注・生産
在庫・出荷
請求・回収

DISの営業網を活用し販路拡大・
販売業務効率化

- 長年培ったサプライチェーンマネジメントにより**全国の需要量・ニーズ**を連携し、**メーカーの生産計画やプロモーション**に反映
- 物流センターをメーカーの倉庫機能として活用することで、**メーカーの時間・コスト節約**に加えて、**キittingや他社製品と組み合わせた出荷を実現**
- 海外から日本市場に新規参入するメーカーと協業し**国内を網羅した販売網・配送網**を提供

一本化
協業
代行

DIS
の役割

一本化
協業
代行

全国96拠点
の営業網

物流センター

商品選定・
提案

市場ニーズ
の把握

キitting

保守サポート

選定	設定
提案	納品
見積	支払
発注	顧客対応

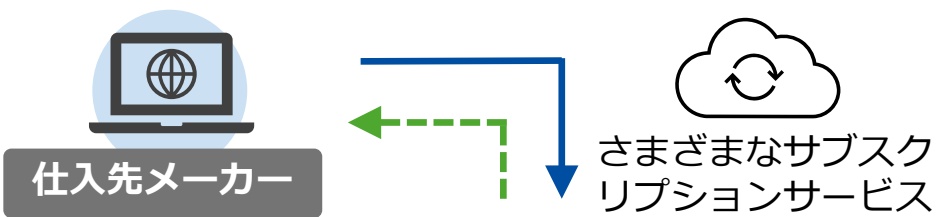
販売パートナー

約19,000社

DISの機能を有効に活用することで
自社の得意なビジネス領域に注力

- 様々なメーカーの商品・情報を取り揃え、**最適な組み合わせで提案・提供**
- 豊富な在庫から販売パートナーに代わって**全国のエンドユーザーにスピーディに納品**
- 出荷前のキittingや運用、保守、延長保証等の**技術サービスをワンストップで提供**
- 地域特性に応じたイベント開催・プロモーションなど**全国拠点を活用した需要創出**

iKAZUCHI(雷)ビジネスモデル



サブスクリプション管理ポータルサイトを提供して
販売パートナーの契約促進を支援

DIS ダイワボウ情報システム

圧倒的な品揃え 260万アイテムからエンドユーザーの多様なニーズに合わせて販売パートナーに提案・提供	コストパフォーマンス 見積りや配送の効率化、SE向けの先進テクノロジートレーニングの提供など多方面から販売パートナーを支援
サービス&サポート メガ物流センターを完備し在庫管理、PC/タブレットのキitting、設置・保守サービスを提供	販売ツールの提供 二つのWeb受発注システム <i>iDATEN(韋駄天)</i> 商品・サービスパック等 <i>iKAZUCHI(雷)</i> サブスク

全国96拠点

販売パートナー

iKAZUCHI(雷)

一括管理可能なポータル ■ 133ベンダー ■ 252サービス ■ エンドユーザー約9.6万社	エンドユーザーが複数のサービス利用をしても同じ画面で契約状況を一元管理
契約状況をエンドユーザー自身で確認できる	月額・年額・従量課金等様々な支払いサイクルに対応

月額・年額・従量課金



企業



官公庁



教育機関



組合・団体等

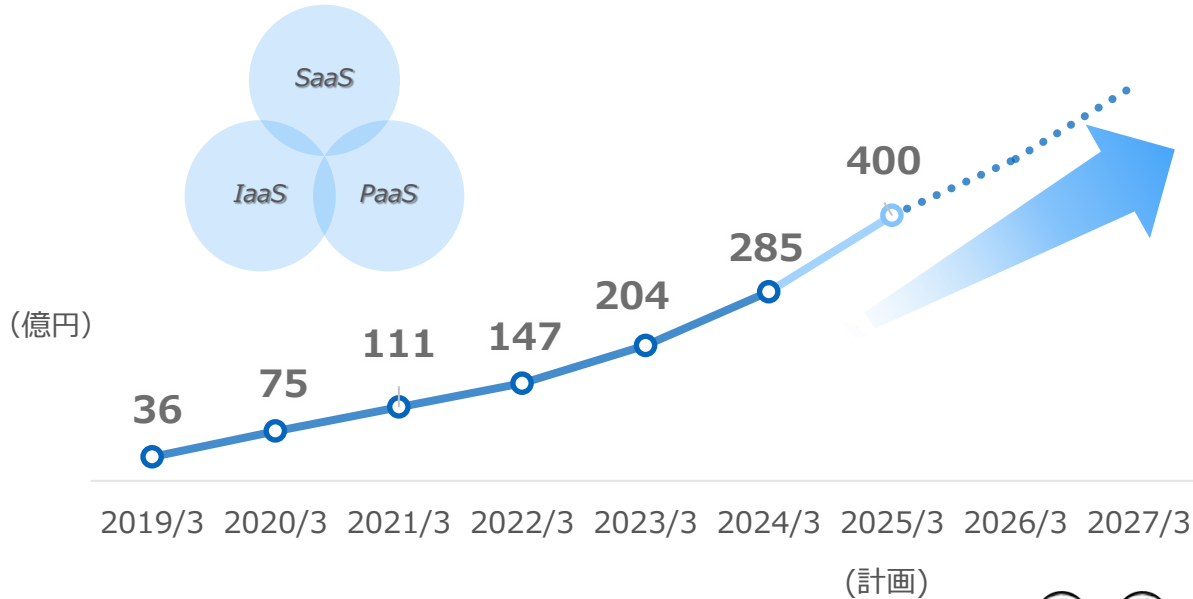
- 事務機器販売店
- SIer
- 商社
- 通信回線業者など

iKAZUCHI(雷)経由でのサブスク実績

iKAZUCHI(雷)取扱高

サブスクリプション管理ポータル「iKAZUCHI(雷)」
を通じた販売パートナーへの販売総額

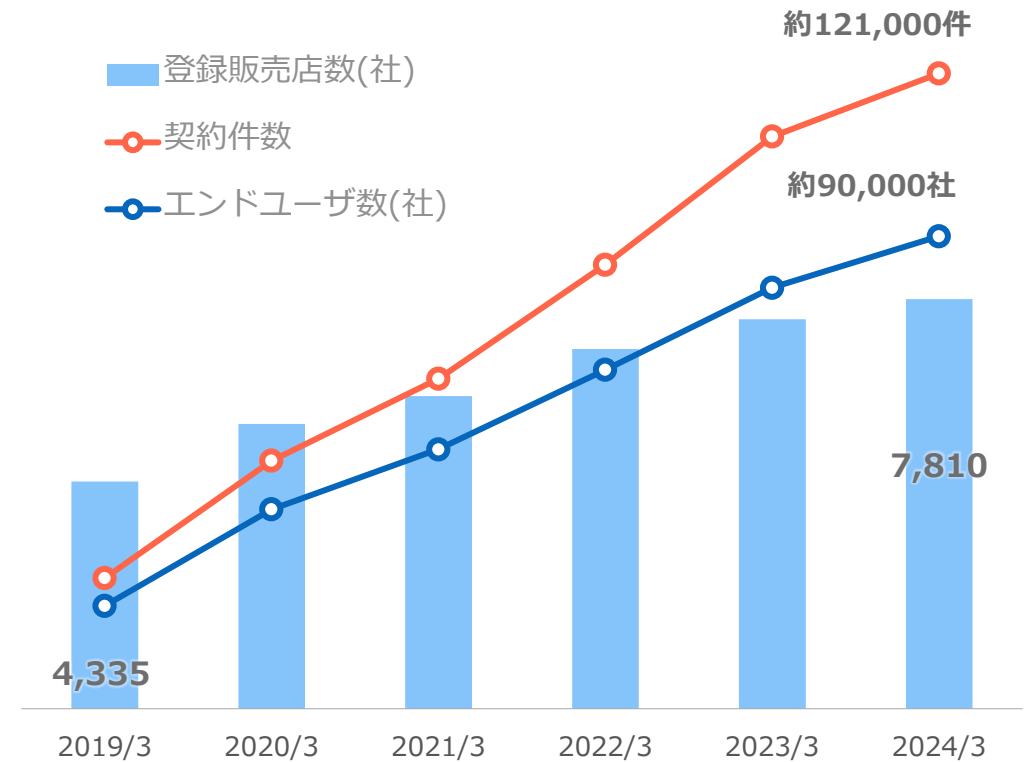
2024/3~2027/3 **CAGR30%以上**の成長を目指す



**サブスクリプションビジネスの
市場を拡大し継続収益の「地盤」を強化**



登録販売店数の推移



対応ベンダー数

24社 38社 65社 88社 115社 130社
(2024/3)

関西センター（神戸市）



2020年5月本格稼働

倉庫面積：36,342㎡

関東中央センター（埼玉県吉見町）



2016年6月本格稼働

倉庫面積：44,753㎡



東西メガセンターを中心に
効率化・生産性向上に注力

ロボットストレージシステム

→作業効率・スペース最適化
【ロボット稼働台数】
関東中央：45台、関西：30台

キittingセンター併設

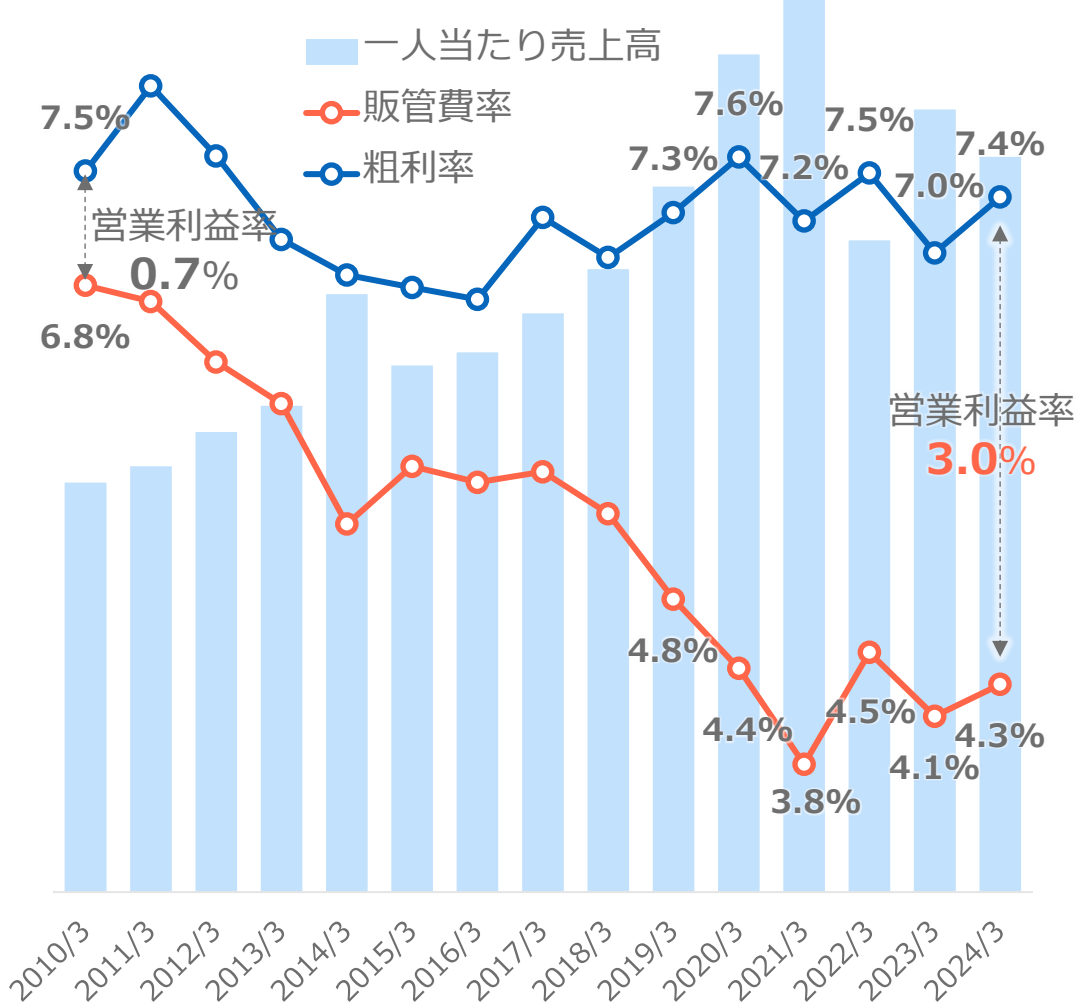
→入荷＞作業＞出荷に迅速対応
PC・タブレット：年間18.8万台
キitting実績（2024/3期）

トラック予約受付システム

→入出荷情報の共有・車両平準化



ITインフラ流通事業 実績

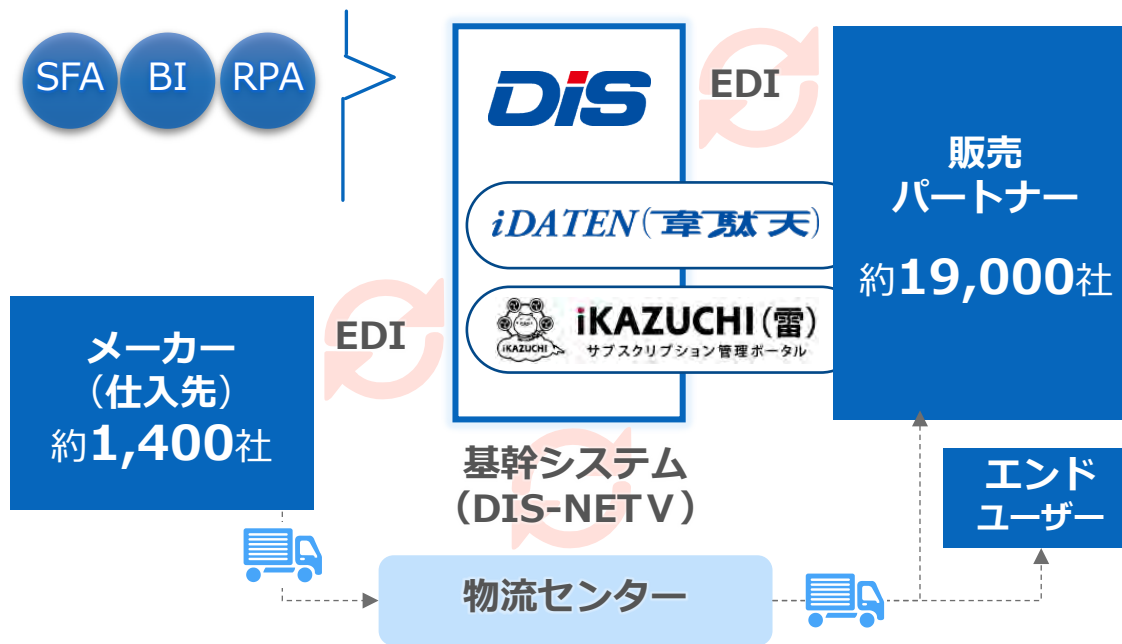


※連結調整を反映していませんのでセグメント実績とは異なります

1兆円を超える売上高を支えるシステム基盤の強化

3カ年で以下の機能強化を実施

- 性能向上のため機器スペック増強、可用性改善
- 既存システムの移行、非互換プログラムの改修を含むマイグレーション
- 災害・障害・セキュリティ対策と運用管理改善・可用性向上
- 社内システム連携強化、自動化
- iDATEN(韋駄天)、iKAZUCHI(雷)、EDIなどの機能強化



立旋盤



- 中・大型で**国内シェアNo.1**（累計出荷台数**7,700**台超 2024年12月末時点）
- 「立旋盤のオーエム」として国内外で高い評価を獲得
- 工作物を水平方向に回転するテーブルに取り付けて切削する機械で、テーブル径は800～6,000mmと幅広く多様な生産形態に対応し、高剛性・高精度で操作性に優れ、航空機エンジン、風力発電の部品をはじめ、あらゆる分野のマザーマシンとして活躍
- 左の写真は小型汎用機「RT-915」

車輪旋盤



- 鉄道車両のメンテナンスに使われる専用工作機械で鉄道の安全と乗り心地の向上に寄与
- 床下車輪旋盤で**国内シェアNo.1**
- 世界初の車輪旋盤を製作し全世界向けに多くの納入実績のあるドイツのヘーゲンシャイト社より技術供与を受けて国産化、設計・部品・ソフトウェアはすべてオリジナル製作

自動機械



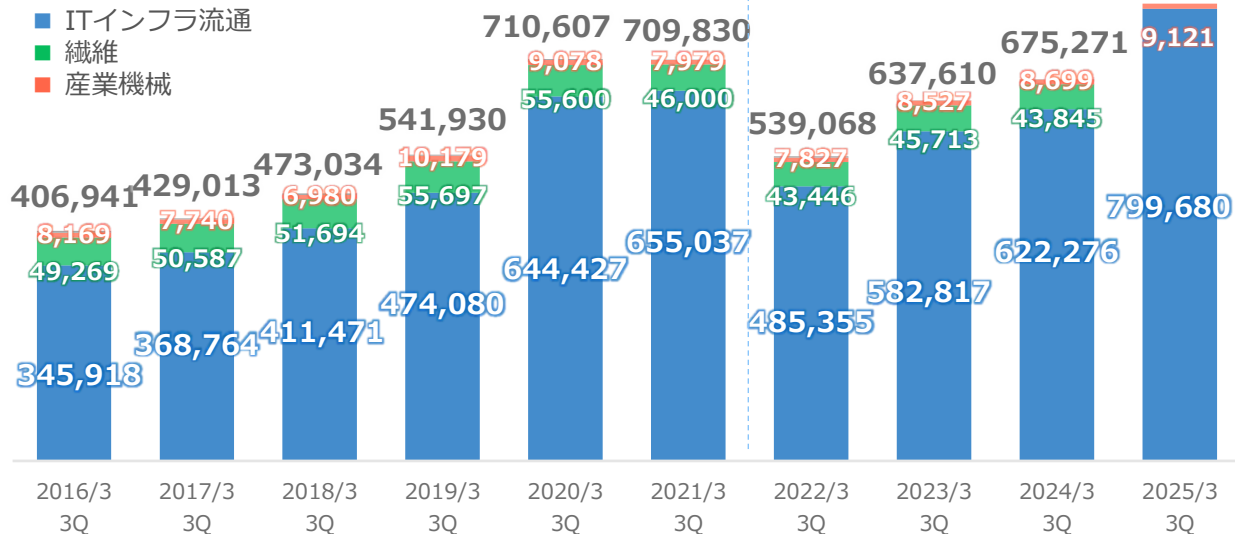
- カートナー（小箱詰機）や、個包装された商品を集積してフィルムで包む中間包装機、段ボールケーサーなど幅広い自動機械を製作（左の写真は横型連続カートナー）
- ライフサイクルが短く多様化が顕著な食品や、製造基準の厳格化が進む医薬品など、変化の激しい分野の包装工程のニーズに柔軟に対応できる技術と発想力が強み

参考資料

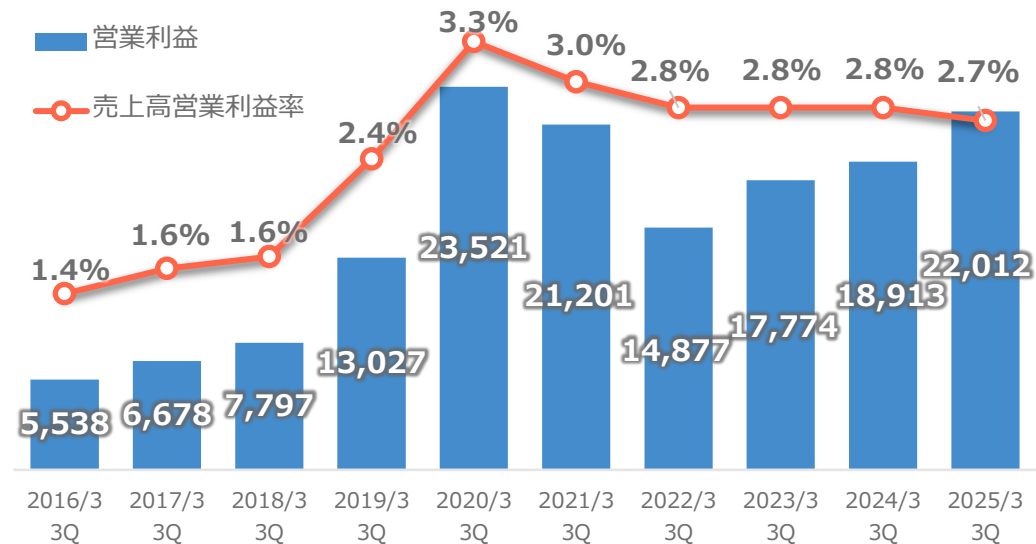
- ▶ 前期（2024年3月期）決算の遡及修正について
- ▶ 中期経営計画の概要（2025/3～2027/3）
- ▶ ITインフラ流通事業の「取扱高」について
- ▶ 事業概要
- ▶ 業績推移グラフ

連結売上高・営業利益・経常利益・四半期純利益（3Q累計期間）

連結売上高（百万円）

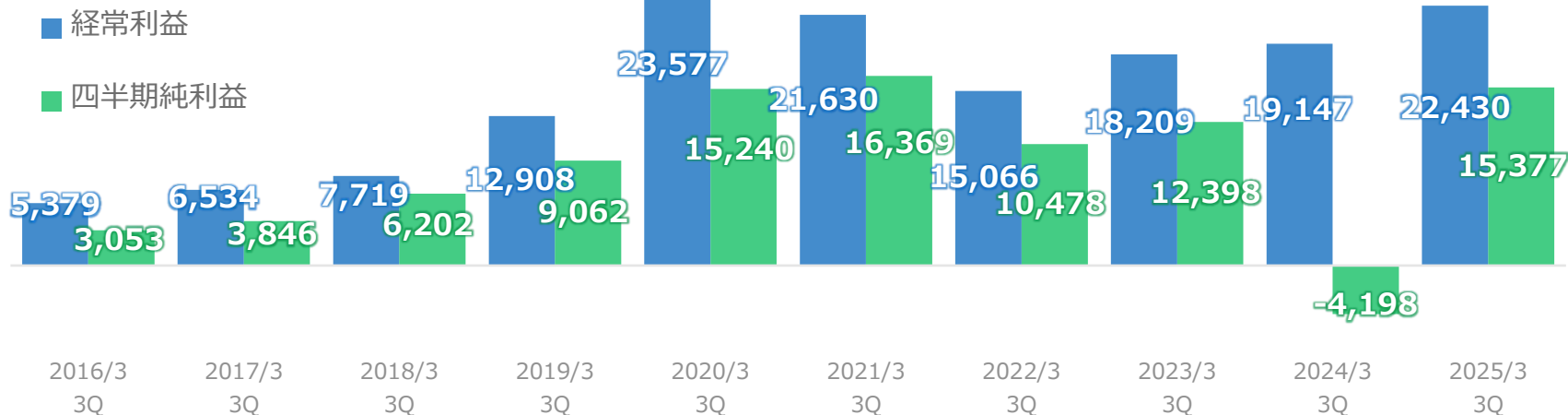


連結営業利益（百万円）



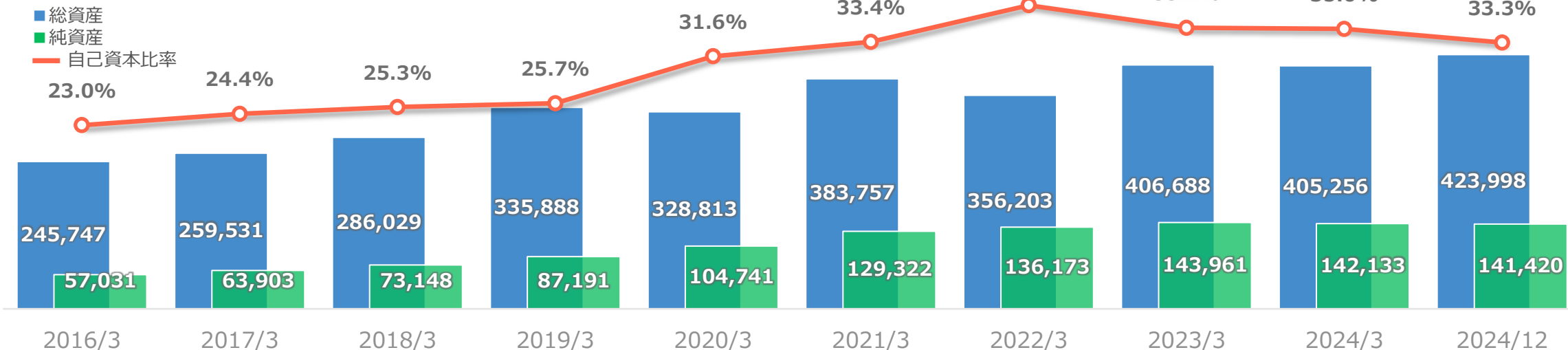
連結経常利益・四半期純利益

（百万円）

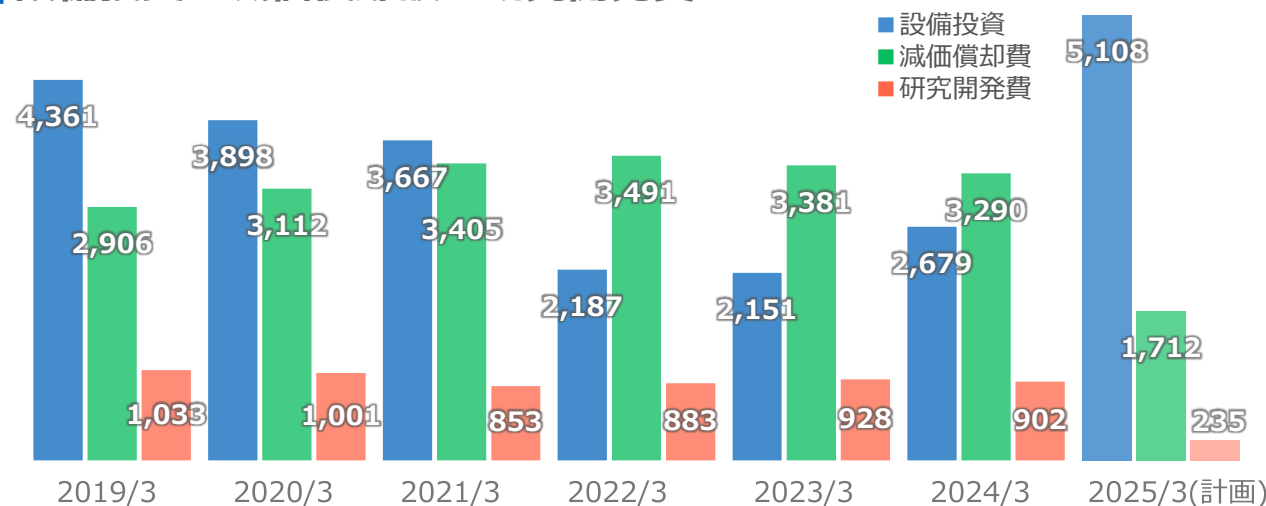


連結業績推移 (3Q累計期間)

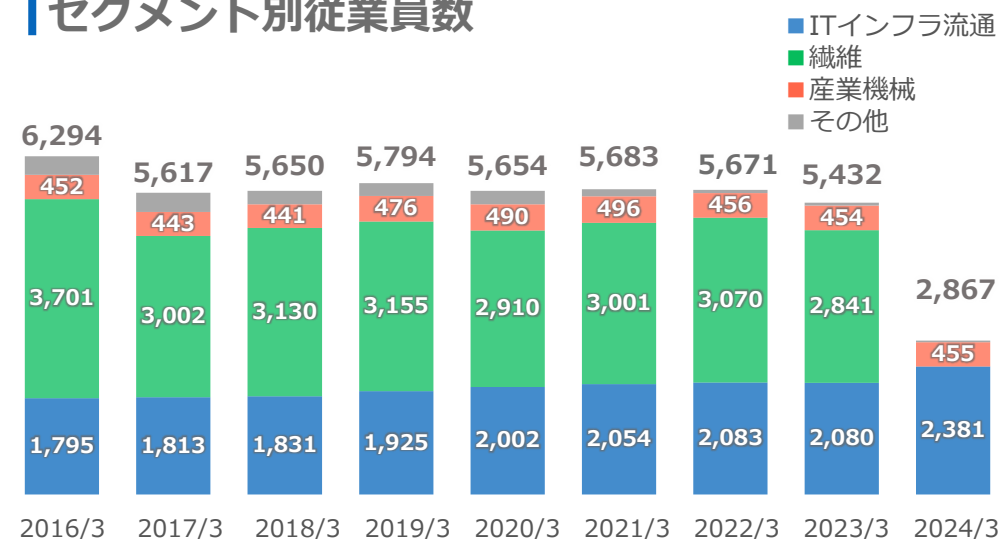
連結総資産・純資産・自己資本比率



設備投資・減価償却額・研究開発費



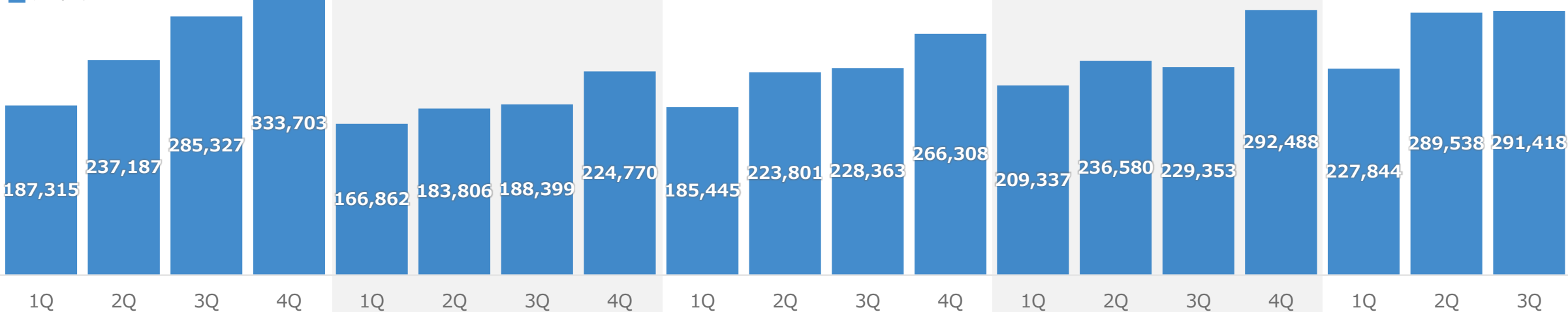
セグメント別従業員数



四半期別業績

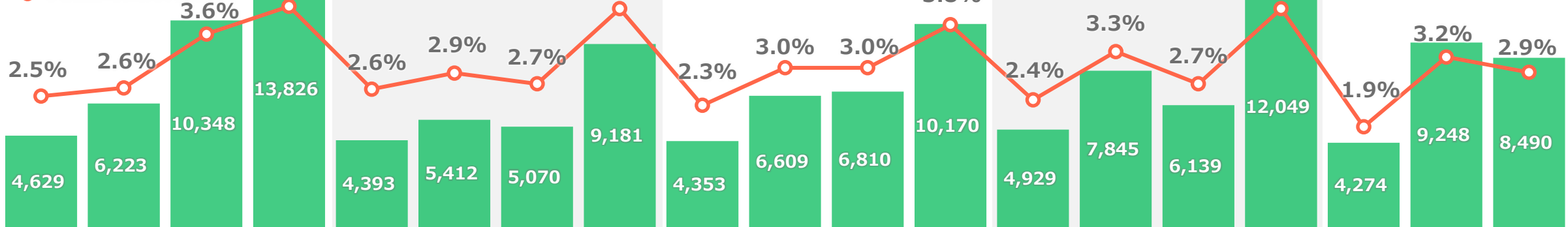
(百万円)

■ 連結売上高



■ 連結営業利益

○ 売上高営業利益率

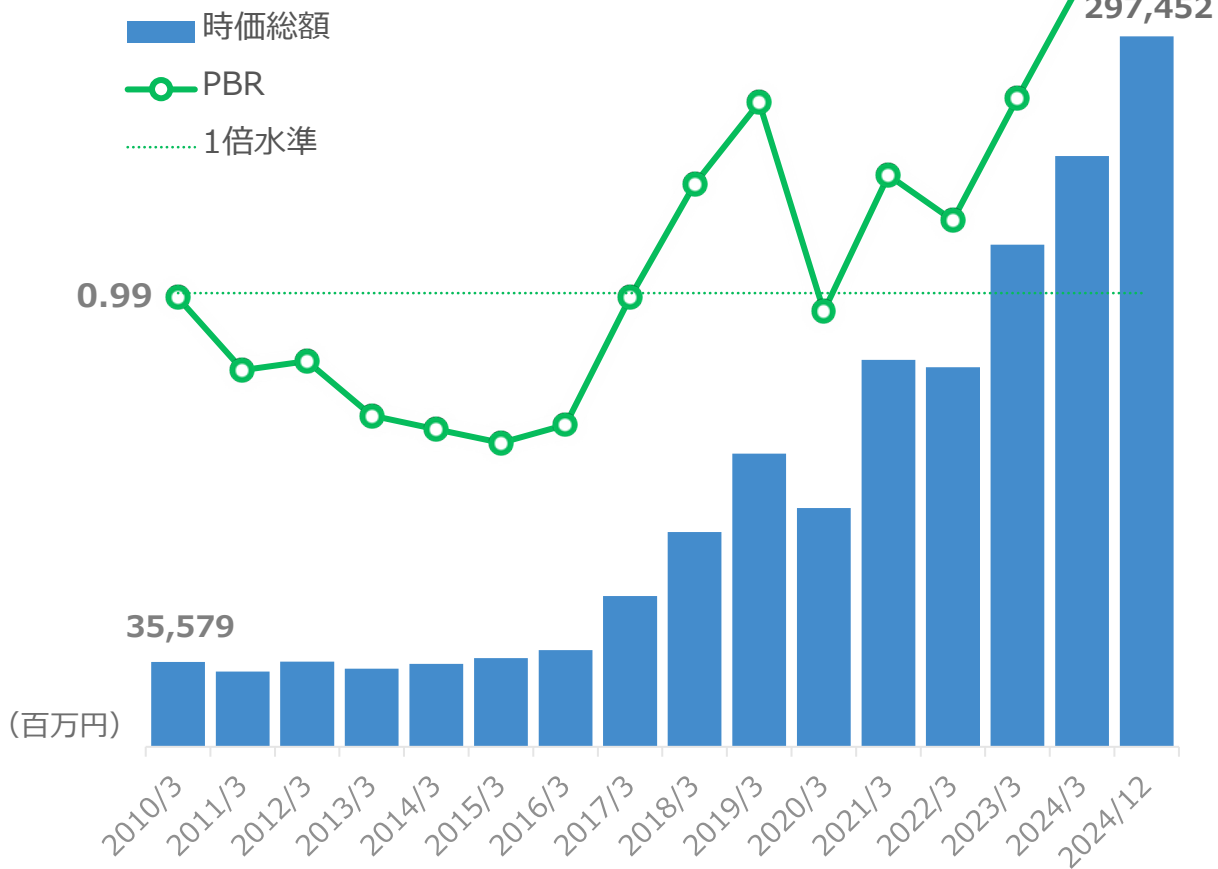


株価推移

PBR 2.00倍

時価総額 297,452百万円

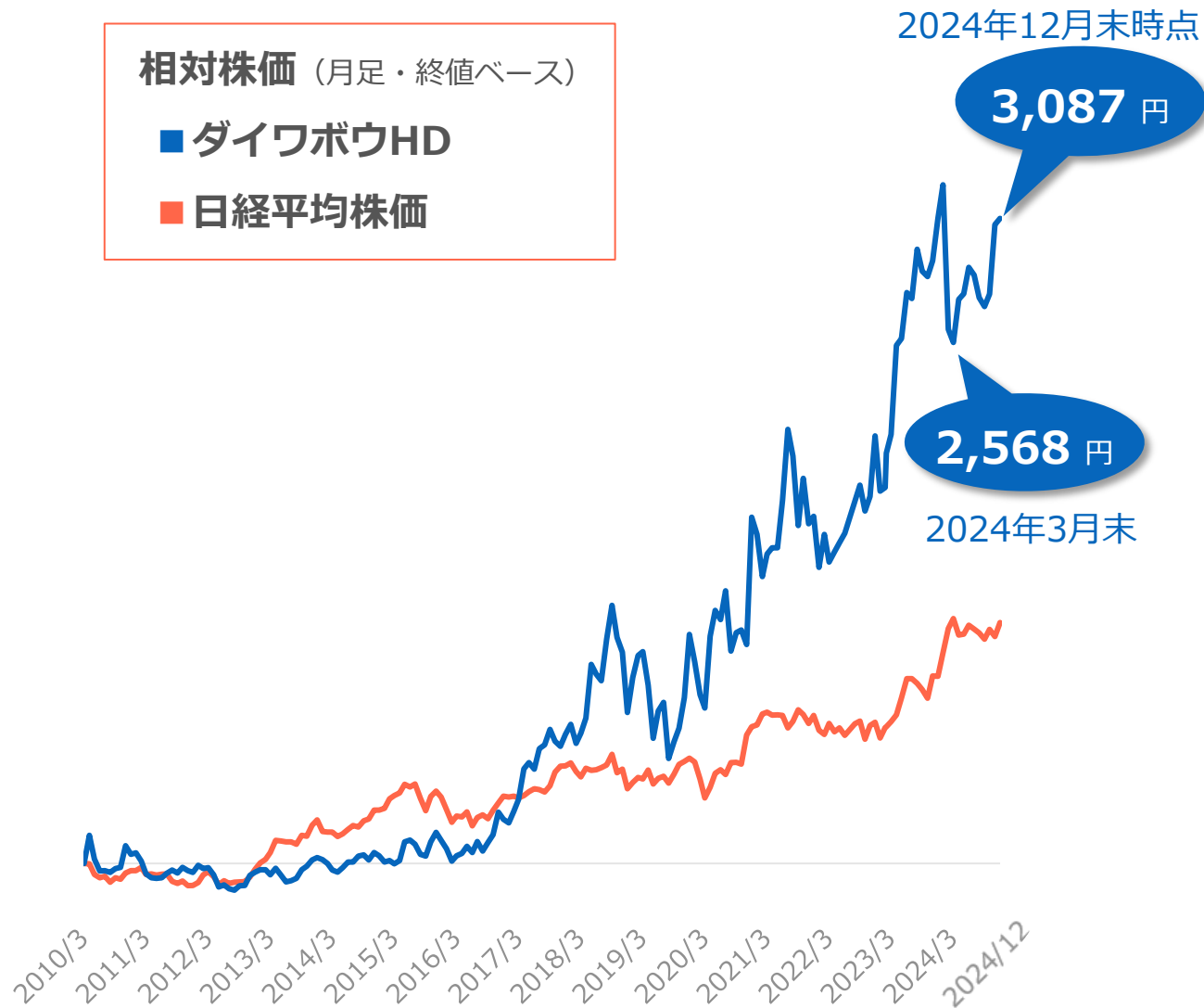
※2024/12終値ベース



相対株価 (月足・終値ベース)

■ ダイワボウHD

■ 日経平均株価



※当社株価は株式併合（2017/10/1）・株式分割（2021/4/1）を過年度に遡及して表示

本社所在地	〒530-0005 大阪市北区中之島3丁目2番4号 中之島フェスティバルタワー・ウエスト	
設立日	大和紡績として創立 ダイワボウホールディングス設立	1941年4月1日 2009年7月1日
連結従業員数	2,867名（2024年3月末現在）	
資本金	216億9,674万4,900円	
株式	東証プライム市場 証券コード 3107 / 業種： 卸売業 <JPX日経インデックス400構成銘柄>	
事業内容	ITインフラ流通事業 [中核会社]  ダイワボウ情報システム株式会社	コンピュータ・周辺機器・ソフトウェアの販売 および物流サービス業 コンピュータ機器等の導入・保守・修理サービス業
	産業機械事業 [中核会社]  オーエム製作所	工作機械、自動機械および鋳物製品の製造販売業

※大和紡績株式会社は2024年 3月27日に独立いたしました。
(発行済株式の85%を株式会社アスパラントグループへ譲渡)

<https://www.daiwabo-holdings.com/>



ダイワボウホールディングス株式会社

【免責事項】

本資料に記載された業績予想値等の将来に関する記述は、現在入手可能な情報をもとに、当社が現時点で合理的であると判断した一定の前提に基づいて作成したものであり、その正確性を保証するものではありません。実際の業績は、今後さまざまな要因により本資料の内容と異なる可能性のあることをご承知おきください。なお、当社は理由の如何にかかわらず、本資料の利用の結果生じたいかなる損害についても責任を負うものではありません。

※本資料中に記載されている会社名、製品名等は、各社の登録商標または商標です。